

杉木格古紫檜木同上白杉ハシラタト呼ブ、木ノ色白シテ腐リ易ク下品ナリ、中凡ソ杉ノ葉ハ、皆末尖リ手ヲ刺ス、別ニ一種柔ニシテ手ヲ刺ザル者アリ、ヒメスギト云フ、一名トウスギ、漢名温杉物理又一種常ノ杉ニシテ、木ニ節多ク直ナラザル者アリ、オニスギト云フ、板トナシテ文理美シ、ウズラモクト云フ、又薩摩スギ、夜久スギトモ云フ、是野雞斑ナリ、又一種エシコウスギアリ、常杉ノ形狀ニシテ枝長ク下垂ス、又一種イトスギアリ、葉細小枝柔ニ長ク、下垂シテ絲ノ如シ、漢名詳ナラズ、

附録 丹桎木皮 詳ナラズ

増、近年花戸ニホウワウスギト呼モノアリ、形狀スギニ似テ、枝悉クチヂレテ長ク下垂ス、幹ノ巨サ枝ト同ジ、故ニ倒レ易シ、即チ江南通志ノ羅漢條ナリ、云羅漢條産九華山、本如檜、高數丈、翠葉間垂心白色、作結成條ト是ナリ、又一種アヤスギト云モノアリ、王氏彙苑ノ塔松ナリ、小木ニシテ葉細ク、軟ニシテ杉葉ノ強クシテ、手ヲ刺スニ異ナリ、

杉栽培  
〔廣益國產考〕杉木仕立方

杉檜松の良材たるや、神社佛閣家造、其外の普請に至るまでも、此材を用ふるに事たらざるはなし、往昔より人多くなるに、またがひ、所々の山々に植て、其産する材木多きうち、和州吉野郡の杉木、木曾山の杉檜、其外諸國より出るといへども、日向の國より出る材木最も多し、諸方より伐出す所の材木は、中々擧るにいとまあらず、百五、六十年ほど已前、吉野郡へ薩州屋久の島より杉の實を取來りて、蒔つけ苗を拵へ、谷々の山へ植弘めしに、深谷ゆる成木して、今は此一郡より板にわきて諸方へ商ひ、又柱やうのものに伐て、谷河を流し、吉野川にて筏となし、末は紀州の海邊まで出し、船につみて諸國へ商ふ事、幾万兩といふ事あげてかぞへがたし、爰をもつて考ふれば、吉野郡へ未だ杉材なき時は、右の金湧出る所なきに、現在夫だけは昔より餘分に金錢を産出せり、